

2 「説明したい」「聞いてみたい」～考えを広め深める学び合いの工夫

<テーマ> 「つまずきを生かし、学び合いを活性化させる取組」(石巻市立須江小学校)

本校では、つまずきを生かすことによって、学習を活性化させ、理解を深めさせるという実践に取り組んできた。本実践では、すべての児童がつまずいた状態から、少しずつ正しい考え方に気付かせていく中で、「説明したい」「聞いてみたい」という意識を高めていった。

【3年「間の数に目をつけて」の実践例】

①問題場面の絵を示しながら問題を提示した。

問題

木が8本、同じ間隔で並んでいます。木と木の間の長さが12mのとき、1本目から8本目まで走ったときの距離は何mになりますか。

つまずきを出させるための仕掛け

- ・詳しく問題場面を解説しない。
- ・解決の見通しについて話し合わない。

問題場面を確認し、すぐに自力解決に取り組ませた。

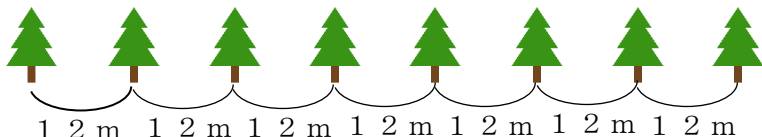
②すべての児童がつまずいた状態から、正しい考え方に気付かせていった。

T どういう式になるかな？

C  $12 \times 8$  です。

T ~くんは図も描いたんだね。この図を黒板に描いてみて。

どの児童も  $12 \times 8$  の式に納得している。



T あれ、先生はこの図を見ていたら、本当に  $12 \times 8$  でいいのかな？という気持ちになってきたんだけど。

児童に揺さ振りがかかる。

C あっ、そうだ。  $12 \times 8$  じゃない。

T 分かった人、図のどこを見たらいいかヒントを出して。

分かった児童にすぐに説明をさせずヒントを言わせる。

C 図のここを見れば分かる。

C ああ、そうか。

C 分かった。  $12 \times 8$  じゃない。  $12 \times 7$  だ。

T どうして？

児童に理由を説明させる。複数の児童に言わせることで理解を深めさせる。

C 木の数は8本だけど、12mという長さは7つだから、  $12 \times 7$  になる。

C 人間の手は指が5本で間は4つ。それと同じで、木は8本だけど木と木の間の長さは1つ少ない7つだから。

正しい式が分かった児童の「説明したい」という思いを生かしてヒントを言わせたり説明させたりした。また、まだ分かっていない児童の「正しい式を知りたい」という思いを生かして、友達のヒントや説明をしっかりと聞かせるようにした。受け身的に友達の説明を聞くのではなく、友達のヒントを手掛かりにして考え、自力で正しい式を見つけさせるようにしたので、児童の思考も活性化した。